ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
秋の特別企画展　ミクロとマクロ

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

2010年9月10日(金)　～ 11月28日(日)

※記事を掲載していただける場合、読者プレゼント用に
招待券をお渡しできます。

お問合わせ先
展覧会内容・イメージ貸出・取材：山之内
PHONE/FAX　0748-36-5018
EMAIL: no-ma@lake.ocn.ne.jp

タイトル	ミクロとマクロ
会期	2010 年 9 月 10 日(金) ～ 2010 年 11 月 28 日(日)
開館時間	午前 11 時から午後 5 時まで（入館は閉館 30 分前まで）
休館日	月曜日（ただし祝祭日は開館し、翌火曜日閉館）
主催	社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団、ボーダレス・アートミュージアムＮＯ-ＭＡ
後援	滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
助成	独立行政法人　福祉医療機構 社会福祉振興助成
協力	（社福）一羊会武庫川すずかけ作業所　（社福）やまなみ会やまなみ工房　造形集団風 いわて・きららアート協会 （社)近江八幡観光物産協会　本願寺八幡別院
会場	ボーダレス・アートミュージアム NO-MA
アクセス	NO-MA　〒523-0849　滋賀県近江八幡市永原町上 16 ■野間清六邸　→　ＮＯ-ＭＡお向かい　■本願寺八幡別院　→　ＮＯ-ＭＡから徒歩 25 分
観覧料	観覧料：一般 500 円　高校生／大学生 350 円　*中学生以下は無料。
お問合せ	TEL&FAX　0748-36-5018
ホームページ	http://www.no-ma.jp
記者内見会	9 月 6 日（月）～8 日（水）の 3 日間において、内覧会を行います。要申し込み。
イベント 講演会など	**アーティストによるイベント** 【ワークショップ】 『近江八幡御馳走一番、朝鮮人街道絵地図を作りましょう。』 ９月１９日（日）１２：３０～１６：００　【集合】ＮＯ-ＭＡ　【解散】本願寺八幡別院 ＜ナビゲーター＞平町　公（本展出展作家） 参加費５00 円（観覧券込）、申込必要、先着 30 名 【トークショウ】 『現代アートシーンの中でのアウトサイダーアートの魅力とは？』 １０月３１日（日）１４：００～１６：００　野間清六邸 ＜講演＞秋元雄史（金沢２１世紀美術館館長） 参加費 300 円（観覧券別）、申込必要、先着 30 名 **担当キュレーターによるギャラリー・トーク** 『私たちを表現へと向かわせるものは何だろう？』 １０月９日（日）１４：００～１６：００　野間清六邸 ＜キュレーター＞はたよしこ（当ミュージアムアートディレクター） 参加無料（要観覧券）、申込必要
プレゼント	いずれの展覧会も、記事を掲載していただける場合「読者プレゼント」用に招待券をお渡しできます。枚数は応相談。希望される方は、ご連絡ください。

展　覧　会　概　要

この展覧会では人が表現するカタチの、大きな二つの座標に焦点をあてます。

一つはミクロ Micros。人の感覚の中に在る、内部へと向かう蠢くような極小世界です。

一つはマクロ Macros。同じく人の感覚に在る、つかみどころの無い巨大に向かう果てのない世界です。

二つは相反しているようにとらえられてしまいますが、本展では、ミクロとマクロは同じ線上でつながっている、という感覚をダイナミックに体感していただく試みです。

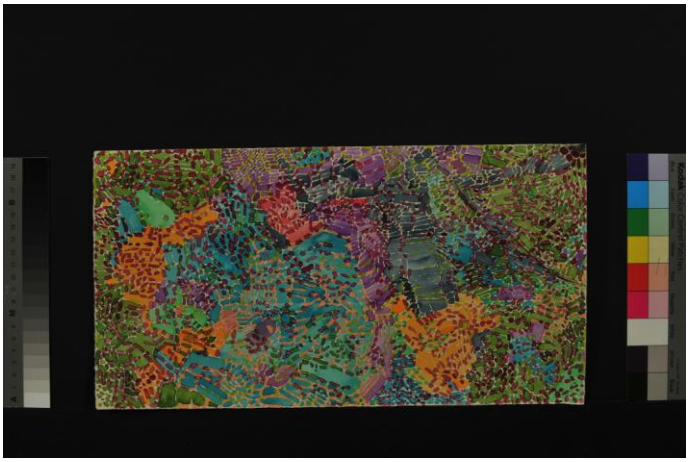
ミクロはマクロに向かい、マクロはミクロに向かう。

この展覧会では、アウトサイダーとかインサイダーであることを超え、理屈ではない感覚の世界を表現することにおいては、両者はまったく同等であることを感じていただく展示を標榜しています。

出展作家及び作品紹介

①**孫　雅由**　Son Ah-yoo　（1949 年在日韓国人として大阪に生まれる～2002 年没）

一貫して色の点描にこだわり、その間合いから生まれるリズムと向き合い、大量の作品を残した。
作品は国立国際美術館、京都国立近代美術館、東京都現代美術館をはじ多くの国内館、また光州市立美術館（韓国）、イビザ現代美術館（スペイン）、大英博物館（イギリス）など多数の海外館に収蔵されている。



②**上田志保**　Ueda Shiho　（1971 年生まれ　岩手県在住　造形集団風））

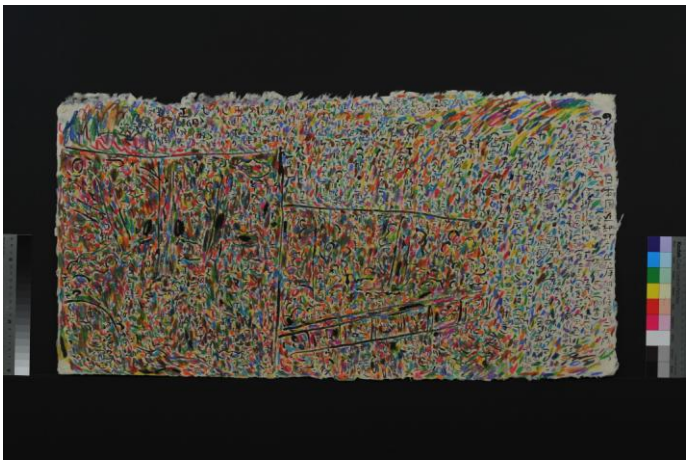
ダウン症の彼女は母親の営む喫茶店の片隅で、毎日絵を描いている。
彼女が自ら「こゆびとさん」と呼ぶ、小さな生き物は時間をかけゆっくりと日々増殖してゆく。
色のカタマリが織りなすリズミカルな「こゆびとさん」世界は数年を経て、今や大群衆となり、大きなうねりのマクロ世界となっている。
作品は、現在パリ市立美術館アル･サン･ピエールで開催の「ART BRUT JAPONAIS」展にも出展されている。

③**平町　公**　Hiramachi Isao　（1959 年生まれ　横浜市在住）

幅２m の巻きキャンバスを何 10 メートルも繋ぎ合わせて、巨大な絵画を制作している。自らその土地の（今回は滋賀県近江八幡界隈）特徴などを確かめ、その地形や物語をからめた独創の絵巻物を描いている。
展示空間全体に張り巡らされた作品は、くらくらする様なミクロ感とマクロ感の融合となる。
「シェル美術館賞展」東京セントラル美術館、「VOCA 奨励賞展」上野の森美術館、「金山平三賞記念展」兵庫県立近代美術館など多数。

④富塚純光　Tomizuka　Yoshimitsu　（1958 年生まれ　兵庫県在住　武庫川すずかけ作業所）

彼は、記憶の物語を、絵と文字の混合画面で埋め尽くすように描いている。
溢れるように書き込まれた文字は、絵と混在して模様のようになり、既に読む事も難しい。彼にとっては「書くこと」の行為そのものにのみ意味があり、誰も読めなくても構わない。物語は彼の壮大なイメージとして連続してゆく。作品は、現在パリ市立美術館アル・サン・ピエールで開催の「ART BRUT JAPONAIS」展にも出展されている。



⑤鎌江一美　Kamae Kazumi　（1966 年生まれ　滋賀県在住　やまなみ工房）

彼女の作る土のオブジェは、指先でひねり出された、細長い小さな粘土のカタマリで埋め尽くされている。なぜそのような形状になっていくのかは、定かではない。ただ、この丹念で気の遠くなる様な手法にこだわっているのは、彼女の内面的な何かと関係しているようだ。無限の極小細胞が集まり、一つの生命体を誕生させるかのような、いきいきとしたユーモラスな形たちである。
作品は、現在パリ市立美術館アル・サン・ピエールで開催の「ART BRUT JAPONAIS」展にも出展されている。

⑥ムラギしマナヴ　Muragishi Manavu　（1971 年生まれ　京都府在住）

映像、立体、平面作品、マンガなど、多岐に渡る表現活動を続け、ユニークな着眼点で世界を捉えて独自の内的世界を表現している。
本展では、自閉症の吉田格也の作品とコラボレーションし、空間的構成作品を制作する。
「どないやねん!現代日本の創造力」エコールデボザール（パリ）
「YOUNG ARTISTS from KOREA.CHINA,and JAPAN」韓国国立現代美術館（ソウル）
「きのうよりワクワクしてきた。ブリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち」国立民族学博物館（大阪）

⑦**吉田格也**　Yoshida Kakuya　（1975 年生まれ　兵庫県在住）

自閉症の彼には、様々なこだわりの行動があるが、いずれも独創的なアイデアに富み、また大変長い期間に渡って制作されている。
本展では、彼が１０数年に渡り制作している、重さ 15 キロ以上もある巻き絵である。広告チラシやポスターを貼り合わせて、そこに奇妙な記号を描いているが、母親によると、それは何かの物語になっているようだという。
彼のエンドレスな物語に、作家、ムラギしマナヴが絡み構成される。